

シニアのシニアによるシニアのための会報誌

ちやらんぼらん

かわら版

特集 躍動の春

心がほっこりするほんとうのお話

チャランポランエッセイ

ジャーナリストの目

素敵な人見つけた

2021

8号

令和3年4月1日

チャランポランの会は何をする会？

チャランポランの会は、シニアを応援する会です。

①会報誌「かわら版」を通して、シニアの方々を元気にしていきます。②会員同士の交流の場を提供し、楽しみや生きがいを持てるようにします。③シニア向けの講演会、イベントを開催していきます。

会員になるには？

原則シニアの方であれば、どなたでも会員になれます。別紙の入会書に必要事項を記入し、チャランポランの会まで郵送して下さい。なお、入会書がない場合は ① 氏名 ② 住所 ③ 電話番号 ④ かわら版を何でお知りになったか ⑤ 出身地 ⑥ Eメールアドレス (オプション) ⑦ 生年月日 (オプション) をお書きの上チャランポランの会まで郵送してください。Eメールでお申し込みの場合も上記の内容 (①～⑦) を忘れずにお書き下さい。

【郵送先】 CharanPoran USA
22301 S. Western Ave. Suite 104
Torrance, CA 90501

【Eメール】 charanporanusa@gmail.com

現在、会費は無料です。もしお気持ちがおありであれば、お志のドネーションは喜んでお受け致します。金額の多寡は問いません。頂いた浄財は印刷費、郵送費等に使用させていただきます。法人口座がございませんので、チェックの宛名は**KINICHI TORII** 又は **AKIRA TSURUKAME** お願い致します。今までドネーションして下さいました皆様に心よりお礼を申し上げます。

チャランポランの会の特典

1年に4回(1月、4月、7月、10月)発行される会報誌「かわら版」が届きます。講演会やイベント、その他シニア向けの情報をお知らせいたします。

「かわら版」への投稿方法

- 川柳、短歌、俳句：お一人1句 ●読者の声：200字以内
- エッセイ：800字以内

住所・氏名・年齢・電話番号を明記。郵送、又はEメールでお送りください。なお、紙面の都合で内容を割愛、又は一部編集させていただく場合もございますのでご了承下さい。なお、投稿が多数の場合は、チャランポランの会で選定させていただきます。

「かわら版」へのご意見ご感想

ご意見、ご感想をお気軽にお寄せください。CharanPoran USA迄郵送いただくか、又はEメールでお送り下さい。今後の会の参考にさせていただきます。

会の名称 『チャランポラン』

私達、発起人は二十代から六十代まで長い間、一応真面目に仕事し、子供を育て、一社会人・一家庭人としてそれなりの責任を果たして来ました。ふと気が付いて見ると、もう高齢者です。昔の元気はなく、体力も落ちました。これからの人生をいかに生きるかと考える時、やはり明るく元気に過ごしたいものです。それには今までの常識の枠を離れ、自由な新しい発想や考え方で生きるのが良いのではと思います。

その理想が「チャランポラン」です。一見、「真面目や責任」とは対極にある考えのようですが、今まで以上に豊かに生きるために必要なキーワードかなと思います。認知症防止のためにも、是非皆さん、一緒に楽しく、チャランポランに生きましょう！

チャランポランの会

●発起人

鳥居欣一 (故) 雲田康夫
鶴亀彰 高山秀男

●運営委員

鳥居欣一 鶴亀彰 土田三郎
宮田慎也 石口玲

●かわら版

北村垂矢 佐伯和代

CharanPoran USA

22301 S. Western Ave. Suite 104
Torrance, CA 90501 USA

☎ 310.347.7300

(メッセージを必ずお残し下さい。)

Email: CharanPoranUSA@gmail.com

www.CharanPoranUSA.com



心がほっこりする

ほんとうのお話

ポーランドの「極東青年会」

ヨーロッパの中で作曲家シューベルトを生んだポーランドは一番の親日国と言われています。その背景には今から百年も前に日本がシベリアで困窮していたポーランド孤児たちに対して行った人道的行為があります。ポーランドは歴史上、何度もロシアの支配下に置かれました。独立を願い、1830年、1863年と、民族蜂起しましたが、大きな軍事力を持ったロシアに叩き潰され、多くのポーランド人がシベリア送りとなりました。その数は15万人から20万人と言われています。

孤児たちを受け入れていた社会福祉法人福田会から寄贈された陶板レリーフ。陶板には、福田会園庭に今も残る斜面で撮影されたポーランドの子どもの写真が転写されています。

1914年には第一次世界大戦が始まり、その最中、1917年、ロシア革命が起き、内戦が起きました。その混乱の中で、ただでさえロシア内で差別を受けていたポーランド人は悲惨な状況に陥りました。ロシア各地で住んでいた彼らの多くはより安全な土地を求め、東のウラジオストツクに逃れましたが、戦いや病気や飢えで亡くなる親が続出し、多くの子供達が孤児となりました。せめて孤児たちだけでもポーランドに脱出させようと立ち上がったのが、ウラジオストツク在住のポーランド

人、アンナ・ビエルキエヴィツ女史でした。彼女は1919年に「ポーランド救済委員会」を立ち上げ、孤児を救う活動を始めました。

― 救済に動いた日本 ―

ビエルキエヴィツ女史は米国や英国、フランスに支援を嘆願しましたが願いは叶えられませんでした。そこで唯一日本だけが救済に動きました。1920年に375人、1922年に390人、合計765人の孤児が日本に運ばれました。福井県の敦賀港に着いた孤児たちを受け入れた地元警察や赤十字や役場や市民は極寒・極貧の中で不安な時を過ごした孤児たちを温かく迎え、手厚い保護を与えました。そして元氣を取り戻した子供達は日本の船でシアトル経由やロンドン経由で、全員無事、祖国ポーランドに辿り着いたのでした。

子供達は神戸港や横浜港から船が出る時、「日本を離れたくない」と号泣したそうです。泣きながら、「アリガト」を連呼し、君が代とポーランド国歌を大声で歌い、千切れるほど手を振りながら、波止場を離れて行ったそうです。言葉が通じない中でも人間の思いやりや愛情は通じます。彼等は優しく接して呉れた病院のお医者さんや看護婦さん、収容所の職員さん達を始め、出会った全ての日本人に離れがたいような親しみや愛情や感謝を感じた

のでした。収容所近くの小学校に招待され、一緒に歌や遊戯を楽しみました。日本の子供達はこぞって自分の持つオモチャや絵本や服などを与えました。大正天皇の皇后、貞明皇后も孤児たちに会い、優しく励まされました。祖国に帰国後、1928年に孤児たちは「極東青年会」を創立しました。

その後、この会は第二次世界大戦でのナチ占領や戦後のソ連邦下での共産主義時代を生き抜き、日本への感謝の思いを持ち続けたのでした。1995年に阪神淡路大地震が起き、孤児になった子供達がいると聞くと、彼等を慰め、励まそうと、「極東青年会」の意志を引き継いだ人々がいち早く立ち上がりました。国内中から多額の寄付を集め、その年の夏、30人、また翌年に30人を三週間の旅に招待し、温かく歓迎しました。歓迎会の場には、老女となった4人の元シベリア孤児が車椅子で参加し、ずっと大切に持っていた日本の絵ハガキや扇子を見せ、子供達一人一人に平和の象徴である赤いバラの花を一輪ずつ上げ、感謝の思いを伝えたのでした。日本からの震災孤児招待は2011年の東北大地震の際にも行われました。「ポーランド国民は日本に対し、最も深き尊敬、最も深き謝恩、最も温かき友情、愛情を持っていることを告げたい。我らはいつまでも日本の恩を忘れない」として今も恩返しを続けています。

文責 鶴亀 彰



行動するシニアをめざして！

鳥居 欣一



春眠暁を覚えずー高校時代、漢文の授業で教わりました。確かに若い頃は朝起きるのが苦手でした。それが今や、まだ暗い内に目が覚めてしまい、二度寝が難しくなってきました。早起きは三文の徳、と言われることから、朝の散歩、手づくり朝食をゆったりとした気分で味わう、読書や音楽鑑賞：等の時間に充てれば、三文以上の徳は得られると思います。

社会に役立つ 「何かをしよう」

ところで、「春と秋はどちらが好き？」と友人の何人かに尋ねてみました。面白いことに、答は全員「秋」でした。皆さんは如何ですか？ 春の桜、秋の紅葉、どちらも甲乙つけ難いですね。そして、桜と富士山は切り離せないほど、日本人の脳裏に刻み込まれています。かつて、鴨川の友人の家に泊まった時、庭に一本の大きな桜の木がありました。ちょうど満開の時期で、その美しさは今でも忘れら

れません。その時、将来いつか日本に家を建てるチャンスがあつたら、富士山がバッチリ見える所で、家の庭には桜の木を植えたいと思いました。いつか実現したいと思っています。

さて、チャランポランの会の運営委員の一人である土田三郎さんから、仏教詩人・坂村真民の『天を仰いで』の一節「心が小さくなった時は天を仰いで大きく息をしよう／大宇宙の無限の力を吸引摂取しよう」をメールで頂きました。坂村氏の名前を知っていましたが、詩は初めてでした。彼のことをもっと知りたいと思い、本を探して読みました。どれも素晴らしい詩ばかりですが、『何かをしよう』がとりわけ心に残りました。

『何かをしよう』

坂村真民

何かをしよう
みんなの人のためになる
何かをしよう
よく考えたら自分の体に合った
何かがある筈(はず)だ
弱い人には弱いなりに
老いた人には老いた人なりに
何かがある筈(はず)だ
生かされて生きているご恩返しに
小さいことでもいい
自分にできるものをさがして
何かをしよう

世界には、社会に貢献されている方がたくさんいます。しかし、何か社会に役立つことをしたい気持ちがあっても、できない人達もいると思います。私もその一人でしたが、一昨年、倫理研究所LA支部主催 COSTAL CLEANING DAY (海岸のゴミ拾い) にチャランポランの会として、

て、参加させて頂きました。

また、日本でも友人に声をかけ、「井之頭公園」のごみ拾いをしました。なぜ井之頭公園かというと、元ボクシング世界チャンピオンの輪島功一氏が井之頭公園で一人でモクモクとゴミ拾いをしているという噂を聞き、輪島氏に会いに行つて、お話ししたのがきっかけです。初めての公共の場のごみ拾い、勇んでいったものの、その日はゴミが殆どなく、何となく拍子抜けでした。ごみ拾いの後はお疲れ様会です。近くの居酒屋で名物の鳥料理を肴に友人と飲んだビールは最高でした。情けない話ですが、それ以来、ポランテニア活動はしておらず、いつもの三日坊主が災いしました。でも、坂村真民の詩を読み、三日坊主であっても、『何かをしよう』と思いました。「三日坊主」も「三日坊主」を何回もや

れば、終いには継続できるようになるかもしれない。要は、あきらめず、「何か」をすることだと思っています。その「何か」を見つければ、即実践していきたいものです。

感謝の気持ち

コロナ禍は、人命にも経済にも計り知れない影響を及ぼしました。先日、リトル東京に出かけた時、スキッド・ロー・ディストリクトのみならず、至る所でホームレスを目にしました。コロナ禍が長引くほどに、富める者と貧しい者の格差が広がり、社会不安も起きているのではないのでしょうか。

これを解決するには、先ず「思いやる気持ち」を持つことだと思います。「思いやる気持ち」は、貧富に関係なくすべての人が持たなくてはなりません。互いを思いやり、与える側も、受ける側も感謝の気持ちを持つということなのです。

最近、日本では「何々してくれない族」が増えていると聞き

ます。「政府はこうするべき」と権利ばかりを主張する人のことを言うのだそうです。この人たちは「感謝の気持ち」など持ち合わせていないのでしょうか。悲しい現実です。兎にも角にも、時代が良い方向に向かうことを心から祈っています。

チャランポランの会

この「かわら版」も八号まで

漕ぎつくことができました。チャランポランの会を始める時、「十号までは絶対に出さう！」と、今は亡き雲田氏をはじめとして、皆で誓い頑張ってきました。これには、陰で支えてくれる女性二人の助っ人の力が九割あり、本当に感謝しています。また、会員の皆様からの多大なるご支援とご協力が大きな支えとなっていることを、この場を借りて感謝申し上げます。

す。出来ることなら、「かわら版」が十号以降も、続いていくことを願っています。「我は」と思う方は是非お申し出下さい。十号を過ぎたら、チャランポランの名称を変更しても良いと私は思っています。「シニアのシニアによるシニアのための会」を目的に始めましたが、若い世代の参画も大歓迎です。皆さんの忌憚ないご意見をお待ちして居ります。

僕の本棚

ねずさんの日本の心で読み解く
「百人一首」
小名木善行著／彩雲出版



この本は、私の蔵書ではなく妻の愛読書で、妻は、この一冊を毎日楽しんでます。リビングルームに常に置いてあるので私も時折拾い読みしています。

チャランポランの会で、LA川柳大会を開催して以来、川柳・俳句・和歌などに興味が湧くようになりました。センスがないので良い句はできませんが、尾藤川柳先生のお人柄に触れて、興味が一層湧いてきています。麻雀を覚え始めたとき、寝ても覚めても牌が脳裏に浮かんできたように「5・7・5 寝ても覚めても 指を折る」なんてこともあります。

百人一首は、子供の頃から馴染んできましたが、この本を読んで本当に興味が湧きました。先ず、ねずさん（著者）の解説が平易で分かりやすく且つ面白いです。日本の良さが伝わってきます。通読せずとも座右に置いて読まれても良いかと思えます。山部赤人が詠んだ、「田子の浦に うち出でてみれば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ」百人一首に載っているものですが、万葉集には、「田子の浦ゆ うち出でてみれば ま白にぞ 富士の高嶺に雪は降りける」とあります。ねずさんは、その違いを教えてください。こんな面白い本に久しぶりに出会いました。日本人に生まれて本当に良かったと思っています。

ジャーナリストの目



ジャーナリスト
北岡 和義

読売新聞記者、国会議員秘書を経てフリージャーナリスト。ロサンゼルスで邦人向け放送局「JATV」を設立。帰国後、日本大学国際関係学部特任教授を経て現在に至る。著書に『13人目の目撃者』『海外から1票を〜在外投票運動の航跡』『政治家の人間力』などがある。

“権力”を怯ませた赤とんぼ 伊藤千尋著『心の歌よ!』

新型コロナウイルス禍蔓延、パ
ンデミックからすでに一年余が過ぎ
た。二月中旬、ようやくワクチンが
到着したというが医療関係者に始ま
り高齢者に注射が行き渡るのは六月
までかかるという。民衆一般はその
後になる。

“アベノマスク”、十萬円の現金
支給、ゴーツー・トラベルの実施と
中止、挙句の果て緊急事態宣言。後
出しじゃんけんだが、政策の貧困に
は怒りがこみ上げてくる。

砂川の闘いの現場に流れた調べ

二月初めメール・ボックスに分
厚い郵便物。友人の元朝日新聞ロサ
ンゼルス支局長・伊藤千尋が送って
きた新刊本である。題して「心の歌
よ!」、サブタイトルに「日本人の
『故郷』を求めて」とある。
「歌よ!」の「よ」に続けて「!」



著者 伊藤千尋
新日本出版社

に書き手の熱い想いを感じる。ぼく
も以前「海外から一票を!」という
在外投票運動を記録した本を責任編
集したことがある。「在外投票運動
の航跡」という副題を付けた。海外
に住む日本人の参政権行使に対する
真面目で純粋な心情を「!」に込め
た。

表紙に大書の桜の花びら、歌に対
する書き手の温かい気分が存分に染
み出している。

あの、硬派のジャーナリスト・伊
藤千尋が「歌」の本……。彼は東
大在学中、キューバにサトウキビの
収穫のボランティアに参加、二年留
年したという変わり者。朝日新聞記
者となってサンパウロ、バルセロ
ナ、ロサンゼルス各支局長を歴任し
た。

東欧のルーマニア革命。独裁者・
チャウシュスクが市民の手で処刑さ

れた時は暴動の渦中にいた。ニカラ
グア内戦では十二歳の少年、エクト
ル・ゴンザレス君がサンディニスタ
民族解放戦線の兵士として銃をぶつ
放す現場を目撃した。一年の半分、
学校へ行き、後の半分は解放軍の兵
士として戦いの現場にいた。

パナマの独裁者、ノリエガ將軍の
逮捕劇やチリの反軍闘争。過激派に
襲われたペルー大使公邸人質事件。
暴力的に大使公邸を襲った過激派の
若者は、アルベルト・フジモリ大統
領の特殊急襲作戦で全員殺害され
た。

そして二〇〇一年九月十一日のア
メリカ。同時多発テロ……。クーデ
タ、内戦、独裁、テロなど、激しく
揺れた流血の最前線を歩いた伊藤だ
が、一方でご本人は大の音楽好き、
東大生の時は合唱部に籍を置いたそ
うである。

冒頭、三木露風の赤とんぼが取り
上げられている。

夕焼、小焼のあかとんぼ
負われて見たのは
いつの日か

「日本ほど歌の種類が豊富な国は
珍しい」（伊藤千尋）。万葉集の時
代から現代のロックやラップまで民

謡や謡、詩吟、収穫の歌、唱歌、演
歌などぼくら日本人は様々な調べと
ともに生きてきた。

スコットランド民謡が原曲の「ホ
タルの光」は今もぼくの心のどこか
に仕舞われている。もっとも最近、
卒業式で歌わなくなったそうだが。

間もなく茶摘みの季節、茶摘みの
歌も数多い。

「かあさんの歌」「北国の春」
「ふるさと」など歌い継がれてきた
数々。作詞家・阿久悠だけでも五千
曲を創作したという。編集者に「阿
久悠」を書いてみないか、と水を向
けられたことがある。音楽に疎いぼ
くは躊躇したが、渡米でその提案は
実現になった。

一九五六年十月三日の夕、立川基
地で警官隊と向き合った農民、学生
ら、デモ隊。測量を阻止しようとスク
ラムを組み対峙した夕暮れ、赤く染
まった空に赤とんぼが流れた。基地
拡張反対闘争と言う荒んだ現場で歌
われた赤とんぼ。警官隊はその合唱
にひるんだという。あと十数歩で敗
れ去るといふ阻止の現場、警官隊は
踏み出すことができなかつた。基地
拡張は断念された。戦後史に名高い
砂川闘争と言う。その現場は「砂川
平和ひろば」として今もこども食堂
などに使われている。沖縄・辺野古
などの闘いの原点である。平和の歌が流
れるのはいつの日か。





B級グルメ食べ歩記



宮田 慎也

一味庵



1618 Cravens Ave. Torrance CA 90501
Phone 310 328 1323

ローリングヒルズプラザにも姉妹店がありますが、メニューは全く違いますので注意！

= 営業時間 =
月 火 水 10:30am-5:00pm
木 金 土 日 10:30am-8:30pm

オールドトーランスのレストラン通りから少し外れた Cravens Ave. にこのお店はあります。隣のFoster'sという有名なアイスクリーム屋さんと2軒がぼつんと並んでいます。建物の外観はぼろくて、いえ少し古びた感じで、なんとも私好みなんです。蕎麦は、日本の蕎麦粉を使い毎日打っています。焼き鳥も焼き鳥職人のコージさんが毎日、鳥をさばき備長炭で焼いていますので味は保証します。焼き鳥のたれも甘すぎず日本人好みです。

一味庵グループ（稲葉も）の蕎麦はこの店の裏の職場で毎日、打っていますのでここで食べる蕎麦が一番打ちたてと言えるでしょう。但し、お支払いは現金のみでカードは使用できませんのでご注意ください。酒類は置いてませんが持ち込みOK、持ち込み代も無料です。

天ざる蕎麦 \$15



冷たい蕎麦なら天ざる蕎麦がおすすめです。暑い天ぷらと冷たい蕎麦はなんとも相性がいいですね。かき揚げ蕎麦も美味しいです。ちょっと変わって、ウナギがたっぷり入ったウナギ蕎麦もおすすめです。

かき揚げ蕎麦 \$12.50



うなぎ蕎麦 \$13



焼き鳥は15種類もあり、どれも美味しいです。ただ、残念なのは焼き鳥は3月末日で終了かもしれないのです。焼き鳥を食べに行かれる方は、先ずはお電話してください。焼き鳥がなくてもお蕎麦が絶品ですのでお忘れなく！



飲んべえにはこたえられない、オールドトーランスの名店です。パーキングは店の横にも数台停められますが、路駐が簡単です。飲みすぎには注意！飲んだら運転はやめましょう！



躍動の春

土田三郎

嬉しい春がやってきました。この季節の始まりは、「躍動の春」です。南カリフォルニアは温暖で恵まれた気候で、陽光が差し込むと「お天道様、今日もありがとう」と、感謝の気持ちになり、三文の徳をします。柔らかな陽射しの中で、木々や草花の芽が伸び始め、虫たちや小鳥たちも躍動し始めます。コロナパンデミックのために人間の活動は大きく制約されていますが、大自然はこれとは無縁で生命の躍動を見せています。自然の力は限りなく偉大で、この「躍動の春」を楽しむことができる恵みは、何物にも代え難い天からの贈り物でしょう。その感謝の心の笑顔で、鏡の中の自分に「さあ、今日も命いっぱいガンバロー！」と声をかけます。

この地は世界の移民が多く

住んでおり、お互いの異文化を尊重しながら元気に生きる風土のため、人々は陽気です。それも日本と違って余計な内政干渉はしないから気が楽です。また山と海が近くにあり、ゴルフ天国で、健康を維持する絶好の環境に恵まれています。日本食にも不自由しません。これには戦後の日系人の辛く長い艱難辛苦の努力の賜物であることに心から感謝したいと思います。でもここは、夏になると山火事の災害が多く発生するのが玉にキズで、天は二物を与えてくれません。

まず思うこと

「躍動の春」の人生へのアプローチは、「まず思う」と、そして「読む、書く、聴く、話す」創作活動です。読むは、先人の名著を素読、熟読すること、書くは、例えば

自分史を書いて心の整理をすること、聴くは、集中力で相手の意図を理解することが要点です。話すは、内容を整理しながら穏やかに話すことが伝わりやすいと思っっています。でも、自分の癖の修正は簡単ではありませんね。

というわけで、「躍動の春」を楽しむには「先ず思う」ことです。思わなければ、何事も始まりません。その思いも思いを強く持ち続けることがポイントです、多くの先人が教えております。また、その思いを書いたり、話したりすることは、とても効果的なことです。思いは言葉にすることにより言葉と

シニアの宝物

こうした創作活動への「思いを持つ」ことは、経験豊かなシニアの皆さんには実行しやすいことでしょう。それは昔取った杵柄で、長年の鍛錬で習得された天与のものです。その思いは文化、芸術、スポーツなど多岐に亘る分野に広がり、躍動の人生を楽しむこととなります。これが内に秘めたシニアの宝物となります。そんなポジティブな経験には、希望、自信、勇氣、愛などが含まれますが、それにはワクワクとした感動もあつたことでしょう。そんな感動をこの春にも再びゲットして頂きたいものです。

因みにこの「かわら版」では、創作活動の一環として、読者からの人生の喜怒哀楽に満ちた投稿をいつでも大歓迎しております。表紙の裏頁をご参照頂き、人生の秘めたる



感動などの投稿をお待ちしております。「人生に希望や自信を持つ人は、いつまでも若い」と、多くの先人たちが教えております。

坂村真民の詩

「念ずれば花ひらく」

念ずれば花ひらく
苦しいとき

母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたびに
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった

この詩は、坂村真民（明治42年熊本生まれ、平成18年12月逝去）の代表作です。彼は仏教詩人で、この宇宙の大自然の中で「命いっばい生きることを、詩の題材や主題（モチーフ）にしています。「熱い感動」が伝わる言霊です。

春のことば

親切な言葉は、春の日差しのように暖かだ
ロシアのことわざ

別れる男に、花の名を一つは
教えておきなさい。花は毎年
必ず咲きます。
川端康成

僕は人生は縁だと思ってきました。朝があれば、昼があり、夜があって、朝がくる。季節で言えば冬がくれば、春、夏、秋がきて。これはもう止めようがありません。人間もサイクルみたいなものあって、調子がいいときもあれば、悪いときもある。
王貞治

春を楽しむように人生を
楽しむ心があるならば、や
がてまた春のそよ風のように、心もやわらいて、生き
甲斐も感じられてきます。
松下幸之助

人生の出発は、つねに
あまい。まず試みよ。破
局の次にも、春は来る。
太宰治

おごれる人も久しからず、
ただ春の夜の夢のごとし
平家物語

窓あけて窓いっぱい春
種田山頭火

男は言い寄る時だけが春で、夫婦になってしまうともう冬だ。女は娘でいるうちは五月の花時（はなどき）のようだが、亭主持ちになるとたちまち空模様が変わる。
シェークスピア

歌と踊りに支えられ

西 さゆり

一年前にコロナ禍が始まったとき、人生が崩れそうになりました。どうやって仕事や生活をやりくりしようかと、とても不安でした。サバイバルモードに入りました。どのようにしたら私は精神的および社会的に生き残れるのかと心配の日々が続きましたが、お陰様で長男の助けを得て、ズームの活用を覚えしました。ズームで生徒さんを集めて、ズンバの踊りを教えました。またお寺の婦人会の皆さんにもズームで椅子踊りを教えた。歌を教えたりして、お互いに幸せな世界に逃れることができました。笑顔で踊り、一緒に歌うことで、孤独を乗り越えることができました。スポーツジムもすべて閉鎖されたため、近くの公園で、週三回ズンバを教えています。多くの人々が短時間集まって会話し、笑ったりして、お互いを高揚させます。

パンデミックは認知症と戦っている私の母親にも影響を及ぼ

しました。昨年の七月からは母の住む実家に戻り、母親の介護に挑戦することになりました。母親の不安を和らげるために、ユーチューブで70年代から90年代の懐かしい演歌を流します。母親の好きな歌は「時の流れに身をまかせ」と「河内男節」です。頑張つて、歌詞を読みながら歌っています。若い時によくカラオケの店で一緒に歌つてた曲です。まだ頭の何処かで残っているのですね。たまには「一人薩摩路」も流します。なぜかと言うと、画像が鹿児島県の故郷の映像を見せるからです。一時的に自分の故郷に戻れる気持ちです。

パンデミック中、お寺から歌と踊りの依頼が来ました。ビデオで録画して、お寺の方に披露しました。雛祭や花祭のために踊りや演歌のビデオを作りましました。生のパフォーマンスはできないけれど、自分の気持ちや感情を表現することはできます。このような機会が得られていることを心から有難いと思っています。鬱になった時、悲しい時、苦しんでいる時、歌と踊

りさえあれば、頑張つていけます。四人の息子たちに「お母さん、100歳までずっとずっと頑張つてね。お母さんは歌っている時と踊っている時が一番幸せな顔をしているから」としよつちゅう言われています。

春と遊ぶ

加藤洋勝



春が近づくと大好きだったキャンデーイズの「春一番」の「もうすぐ春ですな〜え♪」を口ずさむ。

春は生きるものを躍動させる。裏庭の大きな桑の木は新しい葉っぱと沢山の黒い甘い実のマルベリーをもたらず。指先を真っ黒にして摘んだ実を食べ、桑の葉茶を飲むと元気が湧き上がる。

朝の散歩でどんな道にも咲く雑草に小さく閉じた花を見つけました。まだ名も知らない花だった。暖かい陽射しが当たる時、

その花のある場所に行つてみた。黄色の花びらを大きく広げて、きつと誰かに見て貰いたいと一生懸命に咲いたのだろうか。「可愛いね！」と声を掛けあげた。

小さい頃、近所の子供たちを集めてよく野球で遊んだ。桜が咲く頃、家から二駅を歩いて洗足池公園にまで出かけた。大人たちに負けまいとお花見と野球を満喫したものだ。

外遊びが好きだった私は、三十年來ゴルフにはまっている。昔の会社の同僚と今でもプレイを続けている。彼らも九十を越える歳になった。以前のように大きく身体を回転する事はできないがとても元気で若い。この活力は何処から来ているのだろうかと感心する。

春と遊びたくてゴルフ場に来ると、若葉の中で頑張つて咲く名もない花たちからエネルギーを与えられる。ゴルフに興じられる現在の環境に感謝し、躍動の人生を楽しみたい。

躍動の春

峰延子

「躍動の春」をイメージして…と云われ、今年傘寿（八〇歳）になる私は「躍動ですか？」と思わず、にやけてしまいました。

長いアメリカ生活で本当に色々ビジネス展開をしてまいりましたが、桐島洋子さんが言われていた「子育てを生業にしているわけなし、私は母親である前に一人の女として又、職業人として生きているのである」をモットーに仕事をこなしてきました。がしかし、二人の息子は何故か面白くないくらい真面目に育ち、桐島さんの粹な言葉は今では恥ずかしいくらいに母としてバーバとして楽しい老後を過ごしております。

昨年からコロナの影響でなかなか躍動の春には結びつかない今年の春ですが、コロナ禍でずっと休業を続けていた美容室も、少しずつもとに戻りつつあり、少しホットしております。

ガーデン市に美容室をオープンしたのは一九七一年、かれこれ五十年になります。大切なお客様の中にはオープン当初から通ってくださっている方も未だにおられます。素晴らしいことに、九十五歳、そして九十歳の方が六人いらっしゃいます。その内の三人は今もドライブをして颯爽とお店に來られます。先日、來られた方は一〇〇歳で免許を更新され、そのドライバードライセンスを見せてくださいました。こんな素敵な彼女達の共通点とは、

- ①よく食べる
- ②よくしゃべる
- ③おしゃれをする
- ④よく歩く、です。

私も彼女達の様に動けるうちにお店に出て手を動かし、良くしゃべることにはしています。又、私が元気でいられるのは私の唯一の趣味である旅です。もう一度世界一周のクルーズ旅行が出来るような日が早く来るように、そして世の中が落ち着くことを祈るばかりです。

馬馬虎虎（マーマーフリー） 人生はほど良く生きま

しよう。頑張りすぎず、いい加減なくらいに。つまり「チャランポラン」にです。ツバメのように軽やかに、人生も旅も。

春爛漫

大川敏子



「吉野千本桜を見に來ませんか？ 吉水神社で琴演奏をすることになったの。着付けをお願いします。そしてお琴練習もしましょうよ」とお師匠さんから連絡がありました。世界遺産吉野山桜！二つ返事で日本へ飛びました。

「吉水神社まで歩く道程の桜の海は美しすぎて気が狂いそうになるわよ」って聞いてましたけれど、まさにその言葉通り、歌の通り「見渡すかぎり♪」の艶やかな桜の海に吸い込まれていきそうでした。神社の控室

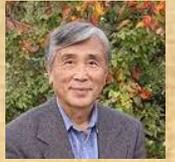
でお師匠さんの着付けを済ませ、神社参りのお客様と一緒に春の琴音を堪能しました。その後、後醍醐天皇および義経と静のゆかりの品々などを見せていただき、帰り道、桜の海をもつと近くで見られる茶店でいただいた桜餅と煎茶の美味しさは格別でした。

翌日は、友人が「都をどり」に誘ってくれました。予約が難しいと聞いておりましたので、手にしたチケットに大感激。美しい衣装をまとった芸子さんと舞妓さん達がステージ一杯に披露する「をどり」は壮観でした。夜は「京の夜桜そぞろ歩き」に出かけました。ライトに浮かぶ桜は、♪絵にも描けない美しさ♪。

東京へ帰る日、ホテルから京都駅に向かう鴨川沿いの満開の桜並木を通過中、突風が吹き荒れ、桜吹雪がタクシーの中で舞い上がり、夢見心地。お琴と衣装と桜づくしの日本旅でした。



鶴亀 彰



一期一会

日本では春は桜です。南から北へ桜前線が北上し、次々に日本全土を桜の花で埋め尽くし、美しく凛々しい花びらで楽しませ、励まします。また日本の春は出逢いと別れの季節でもあります。入学式、進級式、卒業式、入社式、人事異動などが行われ、多くの出逢いと別れが生まれます。私は入学した小学校の庭に咲いていた満開の桜を今でも思い出します。春は昔の懐かしい出逢いを思い出させる季節です。

一期一会とは

「二期一会」という言葉があります。もともとは茶道の心得を表した言葉で、どの茶会でも「一生に一度のもの」と心得て、主客ともに誠意をつくすべき」との意味だそうです。「一期」とは仏教語で、人が生まれてか

ら死ぬまでの時間を言うそうです。この3月に80歳になった私ですが、私にも今から振り返ると、あれが一期一会だったのかなと思ういくつかの出逢いがあります。

日系二世のフレッドさん

1965年、私がまだ24歳だった頃の出逢いです。私は勤めていたニュー・オリエント・エクスプレスという会社の広島営業所で短期間でしたが所長を務めていました。外国からの訪問客の広島滞在中の宿泊や車、ガイドさんの手配をするのが仕事でした。そこで私はフレッド大熊さんという一人の中年の日系二世の方と出逢いました。彼は地元で英語の観光ガイドをしていました。

フレッドさんはとても明るく元気な人でした。まだ若造の私

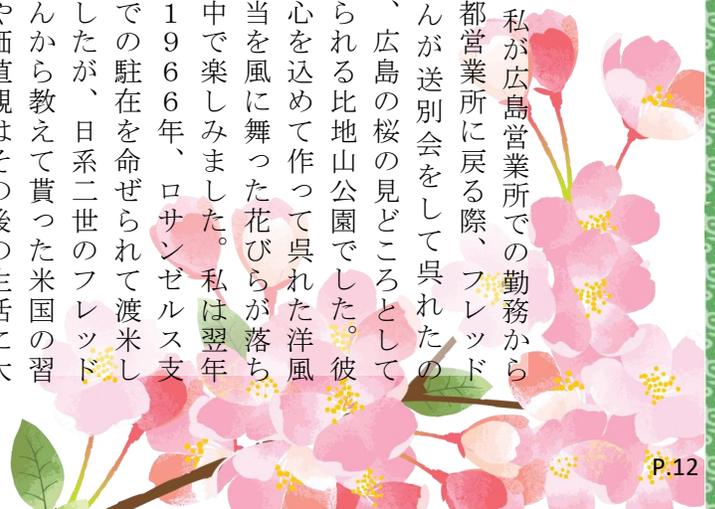
からの要求にも気持ちよく対応して頂きました。身体は比較的小柄でしたが、体軀はがっちりしていました。それには理由がありました。彼は若い頃はプロボクサーだったのです。カリフォルニア州で生まれ、テキサスやアリゾナ州で試合し、その後、広島出身の年老いた両親の介護をすべく、広島に帰ったのでした。両親が共に亡くなった後も日本での生活を続けていました。

私は彼と親しくなり、独身でアパート住まいだった私を何度か彼の家での夕食に誘って呉れました。フレッドさんは料理が得意でした。中でも一番記憶にあるのは牛の尻尾の肉を煮込んだ「オックステールシチュー」でした。テキサスで住んでいる頃によく食べたとかで、豆や玉ねぎやニンジンなどと煮込み、大量のチリ・ペパーで味付け、かなりインパクトのある料理でした。冬の寒い夜には最高に温まりました。

私が広島営業所での勤務から京都営業所に戻る際、フレッドさんが送別会をして呉れたのが、広島での見どころとして知られる比地山公園でした。彼が心を込めて作って呉れた洋風弁当を風に舞った花びらが落ちる中で楽しみました。私は翌年の1966年、ロサンゼルス支店での駐在を命ぜられて渡米しましたが、日系二世のフレッドさんから教えて貰った米国の習慣や価値観はその後の生活に大いに役立ちました。

京都から東京まで歩く旅

もう一つの思い出は1961年、私が20歳の時に出逢ったある井戸掘り職人のおじさんとのわずか、二・三日の心の交流です。この年の春、私は友人と二人で京都三条大橋を出発し、旧東海道を歩き、東京の日本橋を目指す旅に出ました。日本の歴史の中で重要な役割を果たした上方と江戸を結ぶ125里の道を歩き、昔を偲ぼうと思いま





したが、同時に単なる若気の至りというか、「ハタチで馬鹿の仕納めに」という気分もありました。

4月4日に京都を出て、21日にお江戸に着いた、17泊・18日の旅でした。気候は春、桜や菜の花などが眼を楽しませて呉れました。途中二度位は「何でこんなところを歩いていいのか」と後悔する気持ちになったことがありましたが、それ以上に旅先で受けた多くの見知らぬ人々からの情けに感謝し、涙する旅でした。場合によつては野宿しようと、テントまで担いだ山登り姿の私達だったのですが、一度も使いませんでした。

井戸掘り職人のおじさん

小学校の夜勤の先生には宿直室に寝袋で寝かして貰ったり、鈴鹿峠では長距離トラックの運転手さんが仮眠する深夜食堂の押し入れで寝たり、学友の実家や海の家で寝たり、行く先々で、人々の善意と親切に助けられました。お世話になった十数人の人々の中で、私が今でも一



番記憶に残っているのが、亀山で出逢った井戸掘り職人のおじさんです。暗くなり始めていたので、今日はテントで過ごそうと、畑のあぜ道を歩き始めました。

その時に、「こらっ、お前ら何しとるか！」と大声で怒鳴ったのがそのおじさんでした。私達が「お江戸を目指して歩いていること、今日は宿泊場所が得られなかったので、野宿するためテントを張る場所を探していること」を説明しました。おじさんの表情が変わりました。「そりゃ、何とも剛毅なことだ。判った、そんなら、オンボロ家だが、俺の家に来い」と誘われたのでした。そして夕食にビールまでご馳走して呉れました。

その後、友人は途中で足を痛め、名古屋から汽車で京都に戻ったのですが、私はその後も歩き続け、何とか旅を成功させることが出来ました。ところが問題が起きました。旅が終わったら、お世話になった人々に報告とお礼状を送るべくメモしていたノートを失ってしまったので

です。そこで今度は夏にヒッチハイクでお礼の旅を行うことにしました。7月中ビアーガーデンでアルバイトしたお金で京都の名産品を買い、8月に出発しました。

喜びの再会

亀山の井戸掘り職人のおじさんの家を訪ねたら、顔をくしゃくしゃにして喜んで呉れました。それまでおばさんに責められていたそうです。「あんたはしよつちゅう、はぐれ猫を拾って来たり、居酒屋で知り合つた見知らぬ若者を連れて来たりするが、春に連れて来た二人の学生さんも、便りの一つもないでしょう。今後あんなことは止めて下さい」と叱られていたそうです。

そこに私がお礼に再訪したものですから、おじさんの喜ぶこと、喜ぶこと。「ババー、見て見ろ！ 人様に良いことをして無駄なことは無いんだ！」と大気炎です。おばさんも私が京都から持って来たお土産の精でもなく、「ハイ、ハイ」とニコニコ顔でした。すぐ失礼しようと

する私を「是非また一泊して行け。今日は嬉しい。一緒に飲もう」と言い、おばさんに肉を買に行かせ、美味しいビフテキとビールで乾杯しました。

過ぎ去りし日々

あれから何十年もの長い年月が過ぎ、フレッドさんも、井戸掘り職人のおじさんとおばさんも、もうこの世にはいらっしやらないでしょう。米国生活が長くなり、日本での思い出もどんどん遠くなりますが、フレッドさんと井戸掘り職人のおじさんとの一期一会は私に取って、とても懐かしく、私が生きている限り、春の訪れとともに、私を励まし、豊かにして呉れ続けると思います。



第二回LA川柳グランプリ

2021年、第二回ロサンゼルス川柳グランプリはコロナ禍のため、残念ながら紙面上で開催されました。応募総数は138句、多数のご参加に心よりお礼申し上げます。テーマは『いきる』。コロナ禍の大変な時を生きている『いきる』をイメージした力作が数多く寄せられました。応募されました句は尾藤川柳審査委員長の元、厳正に審査されました。結果発表は尾藤川柳先生と昨年LAの川柳大会に来られた池の本さんによって、ビデオにまとめられました。



グランプリ

もう老後

なのに

老後の夢

語る

千日小坊

十六代川柳賞

生きるのが

下手なわりには

喜寿と過ぎ

永田和代

優秀賞

生き方を

曲げず

しぶとい

かけ茶碗

ローベスファミコ

優秀賞

年重ね

世渡りじょうず

にも

なれず

高木子猫

優秀賞

苦楽共

二つの祖国

生きて行く

野島弘子



昨年の第一回LA川柳大会のために日本よりお越し下さいました尾藤川柳先生と池の本和美さんが、今年はビデオを通して審査結果を発表してくださいました。結果発表のDVDをご希望の方は「チャンボランの会」までお問い合わせください。



佳作

生きるため
背伸び
英語で
家も建て
楽浜とんぼ

佳作

ワクチンの
つもり
飲んでる
コロナビヤ
スティーブ・鯨島

佳作

コロナ禍を
活かして学ぶ
生きる
意味
迷い人

佳作

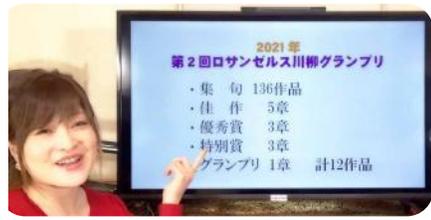
八十路まで
生きた証が
コロナとは
大山千里

佳作

老ゆる毎
生への未練
増して行く
ラーソン靖子

かずみん特別賞

生きている
故郷の川面
夢に見る
坂田英夫



2021年
第2回ロサンゼルス川柳グランプリ
・集句 136作品
・佳作 5章
・優秀賞 3章
・特別賞 3章
・グランプリ 1章 計12作品

グランプリ発表！
この句について述べられる
尾藤川柳先生。「…リタイヤする前は誰でも夢を持つのは当然、しかし老後の時間を過ごしながさら先に先のことを考える…いつも前向き、夢を無くしてはダメ…まだまだこれからという思いが伝わりますね…」



チャランポラン賞

ほっこりと
生きる喜び
かわら版
美国如心

「かわら版」をご紹介
下さいながらチャラン
ポラン賞を発表される
尾藤先生。



しょう老後
をのに
老後の夢
語る
千日水坊

- コロナ禍でどっかい負けずに生きている
みね梅
- パラレルで生きぬ事業生きている
金川 紀江
- 一夜とて妻とし生きたあの戦後
今尚 夢子
- なんとまあ私は母の倍を生きて
勝俣 京子
- 幸不幸 笑って泣いて生きているなり
熊谷 直晃
- 生きる知恵良く寝良く食べ又赤子
松林 郁子
- 今日も無事 普通のことによるこぼし
ミミ ウオルナッツ
- 締めてなお味で活けると鯖威張る
太田 羅山人
- 生きているロスは私の宝島
石口 玲
- 乾涸びた枝に頑張る小さな芽
綾野
- 腹帯をゆるめて余生まるく生き
森田 のりえ
- 生きるぞと目指し伸びゆく今年竹
内 アリス
- 尽きるまで思い出づくり喜怒哀込め
ルーシーグーシー
- あんた誰増えた薬も効き目なし
御園 きり子
- 近頃のシニヤのあいさつ「生きてるかーい」
小倉 ニーナ
- コロナ禍でネットフリックス元とれた
タミー 米田
- 宮ちゃん
酒田 三吉
- いきるとはこの命をば輝かす
鶴亀 彰
- 友の死になげき祈りつまだ生きている
ハイドン 和子
- 生きるためコロナ追出し旅したく
西 達夫
- 杖ついてよろめきながら百めざす
赤とんぼ
- 病み上がり生きる愉しさ思い出す
吉 信二
- 向学心生きる力の糧になり
ボスコビッチ 訓子
- 生かされし今日の命にありがとう
野島 弘子
- したたかに生きる多民多文化に
名古屋 ふじ子
- 声をきく心と身体で登る坂
紙谷 トム
- 父母の背を仰ぎ学んだ生きている術
井上 健一
- 母の母百五で逝かる我も百
ネルソン
- 長生きもほどほどにせよ子等のため
大竹 幾久子
- 「おい」と「ハニー」使いわけられ五十年
永田 和代
- 生き残りかけてワクチン予約取り
大山 少女
- 「生きてるよ」孫に伝えるオンライン

- 犬に顔舐められ夢でキスの味
夏村 草
- 生きながら赤子に変わる老いの道
細瀨 巖
- 生かされる生きる境に的を当て
織田 孝
- 妻が言う入れ歯はずすと母親似
カブトムシ
- 孫からのズームに慌てて眉を書く
ミカン
- コロナ禍でブーツと生きる老いも子も
スミエ
- 生きてゐる喜怒哀楽の中に住む
山田 赤福
- 生きるんだ馬耳東風のロス暮し
東坪 上枝
- 心よりよろこび生きる万華鏡
下澤 尚江
- 四苦八苦 喜怒哀楽と歩む道
天地
- コロナ禍で生きる方法教えられ
ふじ たくま
- 肝っ玉 差別意識と生きて行く
岡崎 昌彦
- 生きるとはコツコツ歩む牛のごと
笑顔 陽子
- 振り返る後の後悔これもよし
川島 文恵
- コロナ禍にマスクファッションいきいきと
抱月
- 信念と希望をもってはげむ日々
あやめ
- コロナ禍に負けてはならぬ我が命
シゲ
- 生きる意味教えられたりコロナ禍で
おたんこナース
- コロナに生き やがてコロリと逝く理想
半句
- 生けること学んだ瀬戸の疎開先
ねむり猫
- コロナ君どっかい私は生きている
あつ姫
- TOGOの香りに負けてひとつまみ
佐伯 和代
- 生きたいよマスク重ねて祈る日日(ひび)
仲嶺 和男
- 古稀になり過去を張り切る最終区
ソフィアM
- 百までも生きるつもり気若き
宝 積(ほうじやく)
- この世をば寅さんらしく生きていく
おにやんま
- 子の授業横で聴講オンライン
中根 美季
- 生きるとは苦楽の天秤過去未来
ラーソン 靖子
- 人生をただひたすら生きて行く
青同 鈴之助
- 夫のいのちコロナに勝ってねと妻の愛
加 減
- 鬼は外コロナも外と豆を投げ
青木 兌子
- 困難を尻に長生き虹湯銭
ストリッチ 定子
- 独り身にはその一言が命薬(ヌチグスイ)
サザンカ



長息し其の一日一日に恋をする
 生き抜くぞパンデミックの闇の中
 さつまいも生かされ生きた終戦後
 人類が生きた証の西暦数
 生きているおいしい食事がその証処(あかし)
 我が人生 後悔浮かぶ航海か
 生きる事他力本願丸投げし
 真つ当に ふんばり生きる 痩せ蛙
 地蔵尊 子等の息災祈る母
 生きてこそ生きてなんぼの生き方ぞ
 生活の会話日英こつちゃ混ぜ
 父が逝くスマホにかすみゆらゆらと
 身の丈に合った暮らしの定年後
 生きるぞと青竹にらみ我卒寿
 長生きで生命保険値上げされ
 コロナ禍生きる力の運試し
 コロナ禍で生きる楽しみゴルフあり
 俺いきるあつちに失せるコロナくん
 我が命いつまで続く八十路(やそじ)なり
 川柳がよりそい生きる令和の代
 いきるってばい菌さまとの戦いね
 薬りのみ毎日歩いて腹八分
 コロナピア棚から降ろされ疫病神
 コロナ禍で生きる意欲が倍増す
 知ればこそ生きる喜び千倍に
 コロナ戦命運分ける日を生きる
 悔いと金残さぬ生き方寿司特上
 アメリカで生き場所見つけ市民権
 コロナ来て人類の危機生き抜かん
 ダーリンと亭主閑白行き来して
 生きている日本背負って外国(とつく)にで
 ワクチンの順番までは生きなけりゃ
 丸ぼうず陽ざしにおどる若葉あり
 雨音に驚きすぎて目が覚めた
 枕元拳(こぶし) ふりあげ生きているのだ
 つまずいた生きている証 抛痛かった

- 織田 孝
- みね梅
- 金川 紀恵
- 今尚 夢子
- 勝俣 京子
- 熊谷 直晃
- 松林 郁子
- ローベスフミコ
- ミミ ウオルナツツ
- 太田 羅山人
- 石口 玲
- 綾野
- 森田 のりえ
- 内 アリス
- 尾園 きり子
- タミー 米田
- 宮ちゃん
- 酒田 三吉
- 鶴亀 彰
- 美国 如心
- ハイドン 和子
- 西 達夫
- ステイブ・鮫島
- 赤とんぼ
- 吉 信二
- ボスコビッチ 訓子
- 名古屋 ふじ子
- 紙谷 トム
- 井上 健一
- 大竹 幾久子
- 大山 千里
- 大山 少女
- サザンカ
- 夏村 草
- 細瀨 巖
- 山田 赤福



占め直すマフラー何度も生きて行く
 苦と難とやさしさの量正比例
 励まされ生きる輝き八十八
 夫婦して持ちつ持たれつ過す日々
 生きぬいて英語で話す孫六人
 生き切るか切なく流る露のごと
 生きるには愛より金と妻が言う
 あなた誰と言われるまで生きたいな
 今日一日(ひとひ)朝日を拝しあゆくぞ
 くり返しつばやいていた どう生きた
 補聴器つけワクチン情報両どなり
 生きる道オレも検索コロナより
 「ただの風邪」なら四十万は生きたはず
 楽に生き笑って逝きたい高望み
 百までは生きるつもりで生きている
 コロナ禍で生きていることに唯感謝
 スーパーの寿司が御馳走菓ごもり中
 生きているただそれだけで希望ある
 ワクチン山さん突き出せコロナ大一番
 元氣無事この一年の合言葉
 歯の矯正マスク時代に先延ばし
 重ねマスク死にあらがう老いの一徹
 まず命そして健康あとは運
 負けないぞインビジュアルなコロナ菌
 生を食むコロナに針打ち負けまいぞ

- 東坪 上枝
- 高木 子猫
- 下澤 尚江
- 天地
- 楽浜 とんぼ
- 坂田 英夫
- ふじ たくま
- ネルソン
- 笑顔 陽子
- 川島 文恵
- 芳月
- おたんこナース
- 半句
- 迷人的
- あつ姫
- おにやんま
- 中根 美季
- 青銅 鈴之助
- 加 減
- 千日小坊
- 佐伯 和代
- 仲嶺 和男
- ソフィアM
- 青木 兎子
- ストリッチ 定子



結果発表の様子は下記の
 YUTUBEでも見られます。
www.doctor-senryu.com/10_ryutube/ryutube.htm
 RYUTUBEというシリーズでは尾藤川柳先生が「川柳」を判りやすく基本からお伝えしているだけでなく、川柳をより深く知るために江戸文化を学ぶこともでき、大変勉強になります。歌い手、MC、バイク乗りの池の本和美さんが、ご案内役です。とても楽しく川柳を学ぶことができますので、ぜひ一度ご覧ください。



第2回ロサンゼルス 川柳グランプリ評

新型コロナウイルスにより制約の多い時代になりましたが、多くの作品が集まり第二回のロサンゼルス川柳グランプリが開催出来ましたことは、皆様の思いの強さによるものと嬉しく存じます。

なによりも「かわら版」の活動が、この一年で大きな成果を上げている証でもありましょう。嬉しく存じます。

さて、昨年の二倍近く集まった句中から、一次選考、二次選考を経て《グランプリ》が決定しました。

もう老後なのに老後の夢語る

千日小坊

は、日米ともに進行する高齢化社会のニンゲンを捉えました。作者自身の思いでありながら、こう生きたいと思わせます。「老後」とは、何時からを呼ぶのかと定義するのは、社会一般の仕事の現役かりタイアかで決まるのではなく、自らが「老後」と決めた瞬間からのことでしょう。実存主義的に捉えた作者の視点が、歳を取ることがマイナスばかりではないという夢を持たせてくれます。

《十六代川柳賞》とさせていただいたのは、

生きるのが下手なわりには喜寿も過ぎ

永田和代

にさせていただきました。人間誰しも生き上手な者ばかりではなく、不器用な生き方しかできない方が多いのではないのでしょうか。

何年生きた…ということでき方が上手くなるのではなく、還暦・古稀・喜寿…と年を重ねても、あまり本質は変わらないというのが人生でしょう。人生のアイロニーの気づきの一句。

《ちやらんぼらんの会賞》は、「かわら版」をよんだ一句にいたしました。

ほっこりと生きるよろこびかわら版

美国如心

「生きるよろこび」までの存在となった「かわら版」を何気ない言い方で礼賛します。日本語を通した心の支えの一つに育っているのではないのでしょうか。

《優秀賞》三句は、自らの心の内側からコトバを紡ぎ出したような人生の句を選びました。ローペス文子さんは、昨年のグランプリ受賞者であり、質の高い句を生む作家であることを裏づけ

ているようです。また、子猫さん、弘子さんもセンスの良さを感じます。

《かずみん特別賞》は、生きていればこそ「故郷の川面」が身近に思われ、生きることへの強い意識が、やがて誰にもやってくる死という宿命を感じさせずにはいられない人生の深さを感じたと言う坂田英夫さんの作品に…。

集句の多くが良い句なのですが、《佳作》五句ということで、「今」の時代をより色濃く捉えた好作品の中から選びました。

一三八句から十二句という狭き門でしたが、発表されるその他の作品にも作者や時代の影が捉えられているものがあり、大きな成果になったと思います。願わくば、はやく新型コロナの蔓延が解消し、マスク無しで時代の空気を吸える社会になって欲しいものです。

「かわら版」のさらなる活躍と皆様
のコロナまでの変らぬご健勝をお祈り
いたします。

アマビエの年に弥増す人の捻

十六代 川柳

一人ブレインストーミングの勧め

若尾龍彦

新型コロナウイルスは未だに世界各国で感染拡大の猛威を奮い、止まることを知りません。アメリカをはじめ各国でワクチンの接種が始まりましたが、国民・全世界に行き渡るには、まだ相当な時間がかかると予想されます。各国ではコロナウイルスの防止対策にマスク着用と3密防止のための都市ロックダウンを実施していますが、経済活動を活性化と感染防止対策のジレンマに挟まれて苦慮しています。

日本では、3月1日、政府は大阪・京都・兵庫などの県知事からの要請を受け、希望する6県の緊急事態宣言の解除を決定しました。多くの専門家の懸念を振り切った苦渋の決断です。国民が感染再拡大が起きないことを祈るような気持ちで、出来るだけの自粛継続を続けています。

外出自粛中は、多くの人が親しい友人や知人に会えないでストレスが溜まったと嘆いています。入院中ほどの病

院も家族でさえ直接面会もできません。検温・消毒をしてナースセンターに行き、看護師を通じた筆談しかできないのです。身内にとつてこれとても辛い状況です。シニアの皆さんは多くの時間を自宅に籠り、近所の買い物かテレビ鑑賞・読書・簡単な散歩で紛らわせています。筋力は衰え、転びやすくなり、体調不良を訴える人が増えています。

この辛い時期をどう対策を立てて乗り切るか、それぞれが工夫を凝らし対策を立てて過ごしています。私のお勧めは「一人ブレインストーミング」です。ブレインストーミング（創造的集団思考）とは、各種の問題解決のために考え出された方法で、幾人かが一堂に集まり、テーマに関連するあらゆる項目を出し合い一つずつ議論を重ねて絞り込んで行く方法です。これにより問題点が整理され、解決や研究の糸口や方向性が見つけられます。

詳しくは親友だった故へん



リー幸田氏の著書「天オエジソンの秘密」（講談社＋α文庫）に、「一人ブレインストーミング」の項目があるので読んでみて下さい。

この中でヘンリー幸田氏は、1930年代に開通した米国北部の東海岸から西海岸に至る電話線網が、冬季の積雪によって多発する電話線断線対策に、ブレインストーミングによってヘリコプターの風圧を利用して電線の積雪を振り落とす解決法を発見した事例を紹介し、彼独自の発想で「一人ブレインストーミング」を推奨しているのです。

ヘンリー幸田氏から「一人ブレインストーミング」を聞いて私は長年実践し、その効用を身に沁みて感じていました。そして、これは多くの人が苦しんでいる外出自粛で、人に会えない現在の事態への対処法として使えるのではないかと推奨する次第です。

一人ブレインストーミングの仕方

何かを考える時に、あなたの親しい友人・家族・知人をお願いしてください。

そして一緒に考えるのです。彼なら、彼女ならこれをどう考えるだろうか・・・と。人は一人一人思考法が異なります。あの人はきつとこの観点から考えるだろうな、あいつはこう考えるだろうな。その人をよく知り尽くしているからこそ出来る方法です。こうすることで、あなたは視野が広がり次第にストレスも薄れて楽しくなります。親しい人を思い浮かべ、頭の中で一緒に考え行動できる・・・ストレス解消にはもってこいの方ではないでしょうか？

皆さんも是非お試しください。きつと視界が開け、遠く離れた友人や家族と思いを共にする時間が増えて楽しくなりますよ。



己を知る

竹中征夫

竹中征夫 (たけなかゆくお)
Takenaka Partners LLC
President & CEO



ユタ大学卒業後、大手会計事務所KPMGに入社。日系人初のパートナーとなる。1989年に竹中パートナーズを設立。「サムライ会計士」の異名を持ち、日本企業の会計処理、不動産、金融機関、IT企業など数多くのM&Aやクロスボーダー取引を成功させ、日本企業のグローバル化におけるパイオニア的存在。

私は学ぶことが楽しい。だから人と出会ったら必ずその人から何かを学ぼうとする。学ぼうという姿勢があれば、どんな環境でも学ぶことができるものです。

私は太平洋戦争が始まった翌年の1942年に愛知県の豊橋で生まれました。中学2年の時に、先に渡米していた父に呼び寄せられ、家族揃って米国・ソルトレイクでの生活をスタートさせました。渡米当時、中学生の私は英語を全く話すことができませんでしたが、高校・大学へと進学し、大学では得意な数字分野での勉強ができる会計学を専攻しました。そして1965年ユタ州立大学商学部を卒業。当時は成績上位25人までは卒業と同時に8大会計事務所からオファーがあるのが普通でしたが、私は首席卒業にも関わらず、仕事のオファーは一つもあり

ませんでした。しかし、会計学の教授が世界の四大監査法人であるKPMGの国際関係のリクルーターに推薦してくれたことがきっかけとなり、翌年、妻と二人でロサンゼルスに引っ越し、KPMGでの仕事をスタートさせました。妻とは日本の中学時代の友人の紹介で文通を通して知り合ったのがきっかけで、アルバイトで貯めたお金で大学3年の時に日本に戻り結婚。ソルトレイクからロサンゼルスに来た時には、妻と子供と3人、安アパートにオンボロ車という全くお金がない状態でのスタートでした。

当時は人種差別も顕著で、特に会計事務所は、UPPROUT (昇進か解雇) かの世界。いつ首を切られるかわからない中で生き抜くのは容易なことではありません。ましてや日本人の私。入社当時は対外的な仕事には有色人種を充てられないとして、表向きは人種差別を禁止していた公共分野の仕事にまわされましたが、私は仕事ができるだけでもありがたいと、その仕事に専念しました。真面目に懸命に仕事をすることで少しずつ周りからも認められ始めたある日、商業監査のチームから応援を頼まれました。私が担当している公共分野は6月末が決済で、4月に決済を迎える商業監査が多忙を極める時期には時間に余裕が

KPMGといった大きな会社ではそれも根強く、日本人の自分は長くは勤められないだろうと思いつつも、大きな会社で少しでも経験が積めるのならばと思い働き始めました。

運が味方する

私はとても運の良い男で、当時の八大会計事務所には日本語が流暢に話せる人がいない状況の中、徐々に日本の企業が米国に進出してくるようになり、日本語が普通に話せる私が大変重宝がられたわけです。

日本人であるということ

あることから、本当であれば、一番首を切られる時期なのですが、彼らは私に清書の仕事を回してくれたのです。実は私の特技は文字を綺麗に書くでしたから、担当分野から褒められ、次々と清書の仕事が増え、後にヒューマンタレントと呼ばれるほどになりました。私は家族を守るためにはどのような仕事でも与えられたことに感謝しながら取り組みました。

私は米国に来て異文化を知り、自分が日本人であるという「根っこ」がわかったと思いました。この差を理解する、己を知ることが、その後の多くの日本企業の米国進出に携わる際の知恵となり、自分の強みにもなりました。いわゆる経営戦略のSWOT分析を学んだ時、すでに自分の境遇から体感で学んでいたと感じました。

SWOTのSはStrength(強さ)、WはWeakness(弱さ)、OはOpportunity(機会)、TはThreat(脅威)です。自分の強さや弱さを理解し、機を逃さず、脅威に備えるということです。このコロナ禍は決して良い環境ではありませんが、これまで忙しく立ち止まっていた余裕がなかった私は、こ

の時期を学ぶには好機と捉え、一石二鳥ならぬ「一石百鳥」となるよう、日々の暮らしや出会いから学び続けています。

ミッションを持ち続ける

人はミッションを持っていて、いつまでも頑張れるものです。その分苦勞はありますが、竹の節と同じで、節が付くことで強く伸びていく。人間の欲を一番マネジメントしているであろう資本主義の中では、苦勞があつてこそ人を幸せにできるのだと私は思います。60年余年、私はこの米国という国で働いてきて、ミッションを持って仕事をしている人ほど苦勞しており、またそういう人が成功しているとも感じています。

私も米国でこの仕事を続けられるのは、このミッションがぶれないからです。日本企業を助けることから始まり、会社の大きさにかわらぬ相互がウィンウィンの関係になっていくことで、さらに発展していけるようにすることが自分のミッションだと思ひ歩んでいます。いつまで仕事をするのかと聞かれますが、私は体力の続く限り、必要とされる限り自分のミッションを果たしたいと思ひつづけます。



南加の春

石口 玲

注・南加=南カリフォルニアのこと

砂漠の春は素晴らしいカラカラの寒風が吹く茶色の大地が

春風に乗って

黄色のじゆうたんの大広間に変わる

一センチ以下の小さな花びらが

ひしめき合つて咲き

何エーカーにも広がる

道端にはルーピンの紫が爽やかに輝き

砂地の地面には這いつくばって

ベルベナの花と茎が伸びる

ポピーはオレンジがかった

鮮やかな黄色で

異彩を放ち

強風になびき、炎の色となつて

大地を情熱で覆う

サボテンの花は

イガイガのとげの中から

妖艶な色気を放つ

トカゲは朝の日向ぼっこが好きだ

虫が花に寄り

花粉だらけになつて食べまくり

交尾をして子孫を残す

鳥の声も冬とは違う

高らかに元氣一杯にさえずる

太陽が大手を広げ

砂漠一面に降り注ぐ

花達は写して、写してと

顔を私に向ける

私も笑つてカメラを向ける

風の強い砂嵐の日もある

花達は花びらを閉じ、

じっと耐える

風が収まれば又大きく開く

砂漠の春は命の燃える季節だ私の足元の

小さな石ころすら燃えてみえる

昨日の砂嵐で

飛ばされてきたものかもしれない

それとも

「億」という時間

此処に居るのかもしれない

私の生きる人生なんて、

この石ころに比べたら

小さな一点にもならない

その短時間の生きる中で

私達は人を憎み、愛し、もがき、

幸せを噛みしめる

この石は

黙つてじつと此処に居て、

春の息吹を吸い

寒い冬も、夏の灼熱にも

耐えてきた

春の暖かい空気に触れ

花と話のできる自分の幸せを

感謝する

悠久の自然の中の一時期だけ

間借りをしている人間達

私も、花も、虫も、鳥も、動物も、

自然の間借り人に過ぎない

その間借り人達をじつと見つめ

優しく、厳しく、

自然はいつもそこに在る

私は花のじゆうたんの中に寝転ぶ

空は青く、高く、まぶしく、

優しい陽の光が

私に眠気を誘う

砂漠の春は素晴らしい



土田 三郎



パンデミックで足るを知る

今回はチョトと失礼して、チャランポラン精神から逸れそうな話です。事の始まりはWHOが一年程前にコロナウイルスの拡散で、パンデミックと言う恐ろしい言葉を世界に発信したことです。これで各国は、てんやわんやの騒ぎとなりました。かく言う小生も、諸悪の根源は何だカンダとわめいておりました。青春時代の学園紛争で、お祭り騒ぎをした癖がまだ治っておりません。

ジョージ・オーウェルの小説『1984』現代に再現

パンデミックの動向は、今まで経験したことのない大きなうねりが押し寄せている感じます。コロナウイルスの変わりがこれからも発生するならば、世界はワクチン開発競争

の再現でパンデミックが長期化するかも知れません。そうなる産業社会は元に戻ることに困難ですから、技術革新で変異コロナに対応する競争となり、技術で先に到達した国が、先取特権を得て世界の利を手中に収めます。世界の潮流では、AIや医療、通信、国防等の先進技術分野の開発を優先し、産業構造を地球的な規模で共通化する動きが進むでしょう。これが特定国に有利となる「グローバル化」と言う流行語です。このため、重要な産業で独占化やグローバル化が進行します。この動きが拡大すれば国家主導により、先に到達した国が占有権を宣言し始めます。情報統制により国民皆が同じ発想となれば、選挙も無用となります。SNSにより国民監視制度が完成し、ロボット化

した人間の人權は軽視され、教育段階から国民の価値観の形成まで共通化し、思想統制となります。最終的には文化の象徴となる言語や民族や国の歴史にも全体主義の思想が入り込み始めるでしょう。

機械に使われる人間の悲劇は、悲劇を通り越えて、チャリー・チャップリンの喜劇になる事態が目前に迫っているかもしれません。

英国の著名な作家ジョージ・オーウェルの小説「1984年」は、全体主義の理想社会を予言しながら、未来に警鐘する小説として一世を風靡しました。オーウェルの小説は、現代に通用する喜劇でしょうか。もしかしたら、幸福度が世界一と言われるブータン国が羨ましくなるのではないのでしょうか。



「1984」
George Orwell



「1984」
ジョージ・オーウェル
高橋 和久 (翻訳)
ハヤカワepi文庫

George Orwell 1903~1950年)

英ジャーナリスト・作家。1949年に「1984」を発表。1998年にランダム・ハウス、モダン・ライブラリーが選んだ「英語で書かれた20世紀の小説ベスト100」、2002年にノルウェー・ブック・クラブ発表の「史上最高の文学100」に選ばれている。

地球があぶない

ところで、この大宇宙で奇跡的に存在しているのが、この美しい地球です。地球の誕生は太陽と同じ約46億年前。脊椎動物の誕生が約4億年前。人類が出現したのが約700万年前です。ある科学者の試算では、地球の全人類が今の米国と同じような豊かな生活を望むと仮定すると「この地球は人類による破壊により、人が住む環境保全是今後50年ほどが限度であろう」と驚く発表をしました。

アポロ11号の年、1969年の世界人口統計は36・3億人で、2019年の統計では77・1億人でした。直

近の50年間で実に41億人もの増加です。これが2050年には100億人となると予測されていますが、

100億の人口は地球では収容が困難と言われてます。700万年の人類の歴史で直近50年間のみで、これほどの人口増加は爆発的な記録です。地球は破壊への道を邁進中です。このことを神様はご存知だろうか。

食料の足るを知る

一方でパンデミック後の世界の食料不足が憂慮されて、「食料の足るを知る」ことの大切さが人々に認識され始めました。この認識が地球的に拡大することにより、地球環境を守り、無駄を減少させ、健康な生活への足掛かりとなれば、人類に希望の光が生まれます。

WHOは、地球人口100億人に危機感を抱いて、世界の肉食を5〜7割程に大幅削減させるプラネタリー・ダイエツトを推進中です。肉食が大幅に減少すれば、地球の農地を食料増産に有効利用する

ことができるからです。しかし世界は貧富の差が大きく、裕福層や危機への無関心層の存在が問題を複雑にしています。人は自分の生活が豊かになると、その生活を維持したいと本能的に望むものです。生活レベルを下げることなどは論外で、大統領の命令も拒否し、猫も杓子もダメダメと抵抗します。

さあ、どうしよう！

日本の宗教道場、一灯園の西田天香の教えに「足ることを知る心に喜びが湧く」とあります。上を見ればキリがありませんが、一人一人が自分の置かれた環境に感謝すれば、自然とそれが喜びに変わるものですと、教えています。また人類は、これまでの利己的な欲求を抑えれば、この美しい地球を救う事が出来るようになる可能性があるとして示唆しています。

禅では「足ることを知る」とは、自己の本分に安んじて貪りを捨てることです。満足

することを知らぬ人は、不平不満の心を起こさないため、心に落ち着きがあり、不安がないと説きます。

老子や荘子は、「知足」を「足るを知る者は富む」と教えています。

仏教では、人の欲望は尽きることがなく永遠に満足しないので、常に不平不満を抱え憐れとなる。「知足」の心で己の本分を知り、欲を捨てれば心に平安が訪れると述べてます。

欲を克服するためには、東洋思想による「今の幸せに感謝して足るを知る」ことが、パンデミックに打ち勝つ大切な道だと思います。



世界遺産京都龍安寺の茶庭に設置された「つくばい」には「吾唯知足」と刻まれている。

みんなの広場

絵手紙でポケ防止

小笠原和子
サンペドロ市

コロナ渦の中での楽しみは、「川柳」と「絵手紙」です。特に、「絵手紙」に力を入れています。絵手紙クラスでは初めは、野菜、果物、花などの写生からでした。いくら挑戦しても、毎回(小学生)並みで、これじゃ(あかん)と、気分を変えて、好きなものを描くことにしました。

元々漫画が好きでしたので絵も漫画的になりました。そのときの転機が、後に私の絵手紙の作風に大きな影響を与えることになるのは、夢にも思いませんでした。

そこに又、衝撃的な出会いがありました。(笑い、可笑しみ、ユーモア)を売り物にしていた「川柳」です。「可笑しみ」をテーマに絵を描いていた私でしたので、直ぐに川柳を絵手紙に中た。これが当たりました。一方で、「L.A.タ

イムス」のコミックから絵を学び、取り入れていたのです。がある日突然、私の中にコミックの手法を取り入れるアイデアが浮かび、直ぐに絵手紙に取り入れることにしたのです。今では「コミック風絵手紙川柳」という、他人とは違ったものになりました。皆さんに「この絵手紙を届けて、喜んで下さることが私のポケ防止になっていきます。こんな世の中だからこそ、「笑い」が必要だと思いますが、如何でしょうか？

我が亭主油断大敵休火山

笑子



■新春号の「川柳に見るロス暮し」は川柳愛好家にとって堪らないコラムでした。また、2回目の川柳グランプリを開催して頂き心より感謝申し上げます。困難な時こそ我々シニアは強い！ T.S.

■「かわら版」の会報全般に学ぶものあり、励まし、同感あり、楽しく読ませていただきました。特に「行動するシニア」には背を押されました。老いを理由に座ってはいけませんね。M.M.

■いつも、楽しく拝読しています。皆様の益々のご活躍をお祈りしております。M.O. 日本

■楽しく読ませていただいています。コロナに負けず、お互いに笑って皆様と会える日を楽しみにいたしております。E.M.

■「いつも楽しい記事を満載して下さいありがとうございます。興味津々読ませて頂いています。H.S.

■シニアにとって楽しい内容で写真やイラストの構成もいい感じで読みやすく、楽しみに読ませていただいています。T.O.

ご寄付いただきました皆様、ありがとうございました！

Aiko Snavelly
Akira Fujimoto
Akira Tsurukame
Atsuko Fukushima
Aya Kitamura
Bob Kumagai
Chizuko Maekawa
Dora Hillman
Eiko Matsumoto
Eiko Yamamoto Yoshimura
Emiko Uchiyama
Fujiya Yoshimura
Hatsuko Mitsuda
Hideo Takayama
Hiroko Mine
Hiroko Nojima
Hiroo & Akiko Nakahara
Hisae Shimozawa
Ikuko Matsubayashi
Ikuyo Hiraguchi
Judith Hsu
Jun Yamada
Kaoru Takahashi
Kats Miyazato
Kayoko Maas
Kazue Totubo
Kazue Short
Kazuko Seko
Kazuyo Nagata
Kazuyo Saeki
Keiko Martin
Keiko Yanagimoto

Ken Yoshimoto
Kimiko Tiszai
Kinichi Torii
Kiyoshi Suzuki
Koko Doami
Kotoko Myers
Kumiko Serizawa
Kuniko Nakamoto
Kyoko Nakamura
Masako Guidry
Masumi Aoki
Megan Fumiko Murakami
Michiko Matsunaga
Michiko Yoda
Michio Hattori
Michiyo Nagikawa
Mimi Onogawa
Minoru Osada
Mitsue Murakami
Mitsuko Heidtke
Mitsuko Noma
Miura Auto Repair
Mtsutoyo Sato
Muneaki Okuyama
Marichika Kawai
Nobue Ashizawa
Nobuka Kojo
Norie Morita
Osamu Honjo
Osamu Tanizaki
Patricia K Brewer
Rei Ishiguchi

Ritsuko Kanzawa
Rituko Uto
Ryoko Lacount
Sachiko Boerner
Satotaka Sawada
Shigeko Saito
Shinya Miyata
Shozo Ogura
Taeko Schaeffer
Takashi Oda
Takeshi Nakamura
Tamiko Namba
Teiko Stritch
Tomohiro Kamiya
Tomokazu Shinazato
Toshie Ahmed
Toshiko Lynn
Toshiko Okawa
Toshio & Toshiko Handa
Yasuo Kumoda
Yasuyo Larson
Yayoi Takeuchi
Yoko McCurry
Yoko Okunishi
Yoko Reed
Yoshie Sato
Yoshiko Matsuzaki
Yoshimi Yasumi
Yukiko Yamamoto
Yuko Hosaka
Yumiko Watanabe

チャランポランの会へ多くの方からドナー
ションを頂き感謝申し上げます。また、差し入
れや切手、励ましのお便りなど、多方面でご支
援を頂き、心からお礼申し上げます。皆様の
ご支援、ご協力のお蔭でかわら版も8号まで
発行することができました。

今後ともよろしくお願い致します。



六月にインティライム(太陽の祭り)よみがえる
タミー米田
おじいちゃん生きて伸びたは鼻のした

ボスコビッチ 訓子

2021年2月28日迄に頂いた浄財は7070ドルです。
ありがとうございました。

素敵な人

見つけた

Vol. 7

坂本安子

日米で福祉の仕事に携わった
四〇年余。人間は一人では生きてい
けない。リタイヤ後の今は仕事に専
念する時間をくれた主人や、巡り
合った人たち全てに感謝の日々。



ご主人と息子さん



LTSC関係の方々

リトル東京サービスセンター(以下LTSC)が設立された1980年に最初のスタッフとして参加した坂本安子さんは、2016年の退職までの36年間、LTSCでソーシャルワーカーの仕事に携わられました。

福島県いわき市で生まれた安子さんは3歳の時にお父様が他界され、お母様とお兄様が家計を支えていました。17歳年上のお兄様が英語に

個人医院、神経内科の院長、高校の恩師、そしてLTSCの初代所長であるビル渡辺氏など、こういったプロフェッショナルな先輩の後姿を見ながら歩むことができたことが、私の人生に大きく影響を与えてくれ、今もとても感謝していると安子さんは言います。

関心が高かった影響もあり、高校時代の安子さんは英語教師になるのが夢で、大学進学を希望するも、お母様から高校以上の教育は必要ないと反対にありました。しかし、高校3年当時の担任の先生が安子さんの想いを知り、お母様とお兄様を説得してくれたのです。新宿の個人医院に住み込みで働きながら夜間大学に通えるという条件で安子さんは大学へ進学。卒業後、英語の先生として教鞭を執ることができました。その学校は、高校入試に落ちた子供達の予備校で、これが安子さんの人生のターニングポイントとなりました。

社会福祉や地域開発サービスを包括的に提供するLTSCでは、DV被害者へのサポートをはじめ、人間関係、金銭の悩み、健康問題など様々な困難に直面し悩む人たちのサポートを行っています。安子さんは「どうやってお礼をしたらいいかわからない」と言う相談者に、「あなたができる時に、他の人をヘルプしてあげてください。」と言っていました。それは安子さんがLAに住み始めてまもなく、日系2世の方から教わった『Pay it forward』の精神でした。

この学校には沈みがちな子が多くいたことから、安子さんは未来を担っていく子供の手助けになればと思うようになり、再度大学に通い、カウンセラーの勉強をし、卒業後、東京の神経内科でケースワーカーとして患者さんをケアし始めるのです。この時院長から学んだことは、其々の患者さんの個性を尊重しながら治療していくこと。

安子さんはこのパンデミック終息後に、東日本震災で被害にあった気仙沼と福島に基金を持っていくことを再開させることが楽しみだそうです。また、このパンデミックで年齢的にボランティアができなかったことがとても残念だったと語ってくれましたが、聞き手として、そんな安子さんの声を終始聴きながら、『We can do small things with great love』というマザーテレサの言葉が蘇るひとときでした。





のりえ



恵美子



かおる



恵子

世の中で一番
楽しく立派なことは、
一生涯を貫く仕事を
持つことです。

世の中で一番
みじめなことは、
人間として教養の
ないことです。

世の中で一番
寂しいことは、
する仕事の
ないことです。

世の中で
一番醜いことは、
他人の生活を
うらやむことです。

世の中で一番
偉いことは、
人のために奉仕し、
決して恩に
きせないことです。

世の中で一番
美しいことは、
総てのものに愛情を
持つことです。

世の中で一番
悲しいことは、
嘘をつくことです。

福沢諭吉



編集後記

▼コロナ禍であっても春は来る。あまり四季を感じない南カリフォルニアでも、道端の小さな花が精いっぱい咲いていると春だなあとつい立ち止まり、ふと昨年の春を思う。

2020年の春、新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめ、世界はすぐに飲み込まれてしまった。どこもかしこもソーシャルディスタンス、楽しい会食なんでもっての他、マスク不足がニュースになるような、ありえない日々。感謝祭もクリスマスもひっそりとしていて、これといった思い出がない。まるで2020年がなかったかのような感じがする。当時はこの状態がいつまで続くのかと思っていたが一年が経った。この一年、何もしないで来たような気がする。月日の経つのは本当に早い。東日本大震災から早十年。愛する人々を亡くしても、逞しく生きてきた人々がいる。何があっても時は過ぎていくのだ。

鳥居氏のエッセイの中にある坂村真民の詩『何かをしよう』にハッと気づかされた。2021年は「何かをしよう」自分のためではなく、人のために「何かをしよう」、心に残る年にするためにも…。(あ)

●第二回川柳大会に、海を越えて協力して下さった尾藤先生と池の本さんに心より感謝申し上げます。バーチャルでの結果発表でしたが、尾藤先生が一句ずつ読み上げて下さり、とても趣がありました。

次号「かわら版」9号は7月1日に発行予定です。

ちやらんぼらん

チャロンボロンの会は、シニアの方
たちが、生きがいを持って、人生を楽
しみ、健康で長生きすることを目的と
しています。シニアだからこそ言える
苦言、提言、さらに、社会奉仕まで、
参加される皆様と一緒に考え、つくり
上げていく会です。

風に揺らいているチャロンボロンな
葉っぱであっても、その木の根っこは
長い人生を歩んできた分、どっしりと
深く広がっているシニアの木。その
、シニアのシニアによるシニアのため
の会報誌「が、かわら版」です。

今後のチャロンボロンの会、並びに
「かわら版」をどうぞよろしくお願
い申し上げます。